

令和5年度 足利中央特別支援学校 学校評価シート

教育目標、目指す児童生徒像、教師像、学校像

教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育と必要な支援を行い、その能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかで心豊かな人を育む。
目指す児童生徒像	〔あかるく〕前向きな気持ちを表情や声、言葉で表現できる児童生徒 〔つよく〕健康を保持増進し体力を高め、運動やスポーツにチャレンジする児童生徒 〔たすけあう〕人と隔たりなく心豊かに関わり、互いに支え合うことのできる児童生徒
目指す教師像	1 深い児童生徒理解に基づく丁寧な指導ができる教師 2 研修・研鑽に励み資質・能力の向上を目指し続ける教師 3 豊かな人間性をもち信頼される教師
目指す学校像	1 安心・安全な学校 2 児童生徒が意欲的に学べる学校 3 地域社会に開かれた学校 4 教職員がやりがいを感じられる学校

令和5年度努力点

評価基準 A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50～80%) C:あまり達成できていない(20～50%) D:達成できていない(20%以下)

重点目標	推進担当	推進担当②	達成目標（評価項目）	評価の観点	評価	取組状況	改善策	学校評議員評価
〔学習環境の整備〕 1 危険等発生時の体制整備と安全管理を徹底するとともに、保健教育・安全教育の充実を図る。	健康指導部 児童生徒指導部		・災害発生時の対応等について、より現実的な状況を想定し、訓練や防災学習を行う。	・避難訓練や防災学習等において、現実的な状況を想定した内容を取り入れ行うことができたか。	A	・地震による避難訓練(1学期)飛散物を回避しながらの避難。・引き渡し訓練(2学期)全児童生徒一斉引き渡し。・火災による避難訓練(2学期)災害道具展示と非常食体験。その他:緊急時地震速報訓練3回、土砂災害による避難訓練の実施。	・現実的な状況を想定したリアルな訓練をねらいとして、今後も効果的な内容を加えて継続していく。	・危機管理マニュアルを毎年度見直しながら作成していることや、内容を工夫しながら定期的に訓練を行っていることはよく分かった。しかし、必ずしもマニュアルどおりにいかないケースもある。想定外のことが起きたときに教職員一人一人がどう判断し、子どもの命を守っていくかということもとても大切である。
2 ICT活用を含む教材教具の工夫をはじめ、合理的配慮による個別最適な学びの環境を構築していく。	教務部 学習指導部	危機管理委員会 ICT推進委員会	・ICTの効果的な活用を含め、教職員の指導実践の共有、教材教具の工夫等により、個々に応じた指導をよりきめ細やかに行う。	・デジタル教材の効果的な活用を含め、指導実践の好事例を参考にするなどしながら、個々に応じた指導を行うことができたか。	A	・校内研修では、特定分野に長けた教師を講師とし、身近で具体的な内容を取り上げるなど、研修内容や方法を工夫した。 ・教材の作成や授業づくりにおいて、ICT支援員に助言を受けるなど、ICT支援員を効果的に活用した。 ・授業研究会や事例検討会等において、指導実践の好事例の共有や指導方法の検討等をした。	・合理的配慮による個別最適な学びの環境をより充実させるため、年度当初に合理的配慮の考え方について十分に確認し、共通理解を図る。	・数年前にボランティアで入ったときは、ICTの活用はなかった。先日6年生にボランティアで入ったときに、スクリーンを使って説明をしていた。児童はとても興味をもって見ていた。
〔教育の充実〕 1 新学習指導要領に対応した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	学習指導部 各学部	教育課程検討委員会	・ケース会議や授業研究会を通してPDCAサイクルC(評価)→A(改善)のプロセスに重点的に取り組み、授業作りに生かす。	・指導内容や手立てについて適切に検証し、次の指導に生かすことができたか。	A	・学習グループによる少人数の授業研究会やケース会議等を通して、指導内容や指導の手立てなど、授業作りにに向けた情報共有、意見交換を行うことができた。 ・主体的・対話的で深い学びに関する全体研修を行い、特に主体的な学びについて児童生徒の取組の見取りや、評価の在り方について確認した。 ・各教科や各教科等を合わせた指導について年間指導計画の見直しを行い、学習指導要領に対応した指導目標や内容、学年間の系統性等の検討を行った。	・授業改善の取組を次年度の年間指導計画や展開計画の作成に反映させ、児童生徒の主体的・対話的で深い学びに向けた授業作りをさらに推進する。	
2 児童生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実を図る。	進路指導部	キャリア教育推進委員会 学校保健委員会	・キャリア教育全体計画に基づいたチェック表の作成と確認を行うことを通して、教師のキャリア教育についての意識向上を図る。	・学部会等でチェック表について、確認や検討を行うことができたか。	B	・各学部でキャリア教育全体計画を基にした発達段階表の作成を行ったことで、キャリア教育について考える機会をもつことができた。 ・キャリア教育推進委員会で、各学部から挙げられた発達段階表の系統性について検討を行うことができた。	・作成した発達段階表をどのように活用するかを検討する。 ・委員会を中心にキャリア教育について周知していく。	・保護者会などで福祉施設が説明をする時間を作ってほしい。会場さえ提供してもらえれば、福祉施設の情報提供など協力ができる。
3 健康の保持増進に必要な資質・能力の向上を目指すとともに、運動を楽しむことのできる素地を培う。	健康指導部 各学部		・運動やスポーツに興味を持ち、楽しめることのできる素地を培うため、各種スポーツ(ニュースポーツ等)について学習する。	・児童生徒が授業や行事等で、スポーツ(ニュースポーツを含む)等について知る、行う、応援することができたか。	A	・ニュースポーツとして、モルック、コントロールアタック、ハンドサッカー等を取り入れた学習の実施。応援することに関しては、運動会、体育祭、持久走大会等で仲間を応援する様子が多く見られた。また全国大会へ県代表として出場する生徒に対し、激励会を行い応援する側、される側の意識や意欲を高める機会が持てた。	・学部やブロックでの取り組みの様子や情報を伝えあい周知することで活性化を図る。	
4 令和6年度創立40周年記念事業の準備を着実に進める。	特別活動部 学習指導部 各学部	創立40周年記念事業準備委員会	・創立40周年記念事業への児童生徒の参加方法について検討を行い、計画的に準備を進める。	・児童生徒が記念事業にどのように関わるかを検討し、共通理解を図りながら準備を進めることができたか。	A	・児童生徒からアイデアを募り、40周年のキャッチフレーズ、ロゴマークを決定したり、児童生徒にアンケートをとり、40周年のダンスの曲を決定したりし、児童生徒の主体的な参加を促すことができた。 ・準備委員会や総務委員会、係会などを通し、次年度に向けて計画的に沿って準備を進めることができた。	・次年度の記念事業に向けて、職員の共通理解を図っていくとともに、児童生徒の参加についても更に検討を重ねていく。	・40周年記念事業。みんなで作り上げるいい機会。思い出作りにもなる。得るものが多い。 ・みどり祭に参加した。みんな生き生きしていた。40周年記念事業も楽しんでいると思う。学校の目標に関する取組みがあるのでいい機会だと思う。
〔家庭や地域との連携〕 1 家庭や地域との連携・交流・協働によって開かれた教育課程を実現し、特色ある学校づくりを推進する。	渉外部		・地域連携授業を実施し、地域の方との連携を図る。	・地域連携授業を継続して実施し、児童生徒との触れ合い、交流が行われるような内容の授業を行うことができたか。	B	・各学部で児童生徒の実態に応じた地域連携授業を行うことができた。リトミックや三味線体験では、講師と一緒にダンスをしたり三味線に触れて音を出したりすることができた。人数や活動内容に制限なく、様々な活動を行うことができた。	・今後も地域への発信、市教委等との連携を図り、様々な活動を通して地域の方々と触れ合う授業を継続して行えるように計画する。	
2 児童生徒の学びと豊かな生活を保障するため、地域資源の活用と行政、医療、福祉等関係諸機関との連携を深める。	児童生徒指導部 地域支援部		・地域の行政、医療、福祉等関係諸機関との連携を図る。	・児童生徒の生活上の問題解決のために、地域の行政、医療、福祉等関係諸機関を積極的に活用することができたか。	B	・不登校への対応については、足利市や佐野市の担当とケース会議を行い、支援についての役割分担等を確認して家庭訪問等を実施している。放課後等デイサービスとは、夏季休業中の情報交換・見学会や他害等課題のある児童生徒についての個別のケース会議を実施し、児童生徒の情報共有を図っている。	・不登校等課題のある児童生徒については、引き続きケース会議等を通して関係機関との連携を深め、課題の改善を図る。	
〔教職員の働き方〕 1 様々なスキルの向上を目指して自ら学び続けることのできる環境づくりを進める。	教務部		・各種の外部研修や校内研修に積極的に参加するとともに、学び得たことを日常の指導実践に取り入れることができる。	・学校安全や学習指導に関する校内研修等において学んだことを学級・学年等の担当者間で共有し、指導実践に生かすことができたか。	A	・学級・学年等の担当者間での協議が含まれる研修を行うなど、研修の持ち方や内容の工夫等を行った。それにより、教師が共に学び合い、高め合う雰囲気醸成され、研修への参加や指導実践の活用が積極的になされた。	・より幅広いスキルの向上に向けて、研修に取り上げる分野や視点等を変えながら、自ら学び続けることのできる環境づくりを継続して進めていく。	
2 心身の健康の保持増進と、ワークライフバランスを意識した働き方改革を推進する。	教頭	学校安全衛生委員会 校務運営委員会 さわやか委員会	・教員一人一人の意識改革を促進し、勤務時間の適正化と業務改善に取り組む。	・働き方改革の取組みを通して業務改善に取り組み、業務を行う環境の整備に取り組もうとする意識を向上することができたか。	B	・ライトダウンデー、定時退庁日の実施により、超過勤務時間の短縮に対する意識は向上してきていると考えられる。しかし、一人一人の業務量は変わらないので、業務改善が進んでいるとは実感できないのが現状である。	・行事や会議の削減、会議の終了時間の設定など、できることから改善を行い、業務に当てる時間を確保していく。	・他の項目と比べるとA・Bの数値の低さが目立つ。過労死ラインの勤務時間、休職に追い込まれる教員、なり手が少なくなるという悪循環になっている。仕事量は減らないので、限られた時間で処理するのは無理がある。教育の質を落とさずに効率的に取り組む環境づくりが大切。
3 情報共有と役割分担を意識し、組織力の向上を目指した協働体制の確立を図る。	教頭		・組織での対応という視点を持ち、情報共有や役割分担をすると共に、互いに助け合う意識を持って業務に取り組む。	・情報を共有し、声を掛け合い協力し合うことで、学部や校務分掌部など組織として取り組むことができたか。	B	・学部主事や分掌部長を中心に情報共有を行い、組織的に取り組むことができた。指導体制に余裕があるときは、重複学通常学級に補教に入るなどに入るなど、学年・ブロックを越えて支援を行うことができた。	・一人一人が忙しく協力を求めづらいという声も聞かれる。ボランティアの導入を積極的に進めていく。また、PTAの協力も仰ぎ、業務に当てる時間を確保していく。	・教材作りなどはボランティアでもできる。活用してほしい。